



中央地区

# 新春落語会に参加して

## 地区新春落語会 桂文治師匠 (11代目)



桂文治師匠 (11代目)

去る1月17日(火)に行われた中央地区の『新春落語会』に伺った。私たちは松本で暮らすようになって5年だが、こちらの会への参加はこれが初めて。大手公民館の館内へ入ることさえ2回目で、勝手のわからぬまま、しかし落語好きの血が騒ぎ拝見させていただくことにした。

会場となった大会議室はほぼ満席。「大いに笑うぞ」という意気込みで来られた方ばかりゆえ、師匠の登壇前から

華やかににぎわっていた。ほとんどのが毎年この会を楽しみに来られている方のように、また近隣の顔なじみということもあってか、和やかな雰囲気の中、会は幕を開けた。

師匠を迎える前に行われた公民館長の口上では、この落語会に真打を招くのは初めてとのこと。参加初回からそんな席を拝見できたことはとても幸運だった。しかも、桂文治は今回お迎えした師匠で十一代目を数える伝統ある



笑いが止まりません (笑)

名跡だ。江戸の桂派のなかでも際立つ大名跡ゆえに、代々実力者がその名を継いでいるという事で、否が応でも期待が高まる。そうした方々の高座を、公民館のアットホームな空間で見られることを、とても嬉しく思った。

お仲入りを挟んで二席がかけられたが、最初の「源平盛衰記」は、先代の文治から続く十八番。ダイジェスト版とはいえ、この斬を聞くことができ、「こいつあ春から縁起がいいわいな」という気分。源氏と平家の戦いの合間に、現代にタイムスリップするユニークな斬運びで、会場も爆笑。那須与一が扇を射る場面になると、結末を知っているとはいえドキドキしてしまい、その後のサゲでまた爆笑。緩急のある運びに気持ちよく笑わせていただいた。

こうした機会をいただけたことを公民館スタッフの皆さま、そして桂文治さんご一同に、改めて感謝したい。これをきっかけに公民館活動に親しみを感じるようになったし、さまざまな催しにも参加してみたいと考えるようになった。

地域のつながりの重要性が言われるなか、公民館の果たす役割の大きさと広さに気づかされた、良い機会でした。

(T・O)

### 歩いてみたい城下町 まちづくり連合会主催

### 第3回 まちづくり 勉強会

2月10日(金)、歩いてみたい城下町まちづくり連合会主催による「第3回まちづくり勉強会」が大手公民館で開催されました。昨年度は新潟県長岡市にある市庁舎「アオーレ長岡」の視察研修が実施されたところですが、今回はその取組や長岡のまちづくりについて高見長岡副市長から講演いただき、約60名の参加者が耳を傾けました。

高見副市長からは「アオー

レ長岡」について、市庁舎でありながらも市民交流・協働の拠点施設として各種イベントが展開されていることや、長岡駅周辺整備による交通アクセスの向上などについて説明がありました。また長岡にはない歴史的文化的資源が松本にはたくさん残っていることについても触れ、松本城という地域の宝を活かしたまちづくりや、地域の人が地域のことをもっと知るための情報源として、ローカルニュースが果たす役割の重要性についても話をされました。

参加者からは「ないものねだりではなく、あるもの探しが大切だね」といった声が聞かれるなど、これからのまちづくりを考える上で有意義な時間となったことでしょう。



長岡市副市長の高見氏による講演

食育講座

「かんたん！おやき作り」

に参加して

宇留賀 千恵子(北土井尻町)



2月23日(木)、かんたん！おやき作りに参加させていただきました。大石先生にご指導いただき、五つのグループに分かれて行いましたが、皆さん和気あいあいで作りました。

地粉300gをぬるま湯で耳たぶぐらいの硬さにこねたあと30分寝かせておき、その間参加された皆さんとおしゃべりしながら具を作り冷まします。私たちのグループにはおからと野菜菜を用意してくださり、それを包みフライパンでこんがり両面焼いて蒸し器で20分ほど蒸して出来上がりです。

出来あがったおやきと、手作りの堅ダイコン、キュウリ、とろろ芋、カブの漬け物が並

び、一緒にいただきながら一人一人感想を述べ合いました。「こんなに簡単に出来ると思わなかった」、「さっそくお家で作ります」との意見が多く味も最高でした。

かたちも小ささまぎま、でも具が外に飛び出さなかった喜び、これぞ主婦の喜びです。かんたんにできるメニューを次も続けてほしいと思います。

溝上哲朗さんによる松本景観ルネサンス



溝上 哲朗さん(中央)

3月5日(日)、医師で古地図愛好家の溝上哲朗さんによる講座「松本景観ルネサンス」が開催され、40名の皆さんが参加されました。

松本城のシンボルである天守閣と常念岳の関係性、そしてお城と城下町を作り上げた城主の思惑といったところまで、独自の視点でしかしなから強い説得力を持って持論を

展開され、今までは一味違った松本城の魅力を発信していただきました。

参加者からは、「毎日お城周辺を散歩しているが、次の散歩時から景観を意識しながら散歩する楽しみが増えた」といった声や、「後世

長元坊 チョウゲンボウ

「松本山雅FC、喫茶山雅を応援しよう」

二月の居酒屋公民館は、「喫茶山雅」の開店を機に、株式会社松本山雅の営業部チーフ小沢修一さんと、「喫茶山雅」の店舗マネージャー若松美沙さんが参加されました。

また大手公民館からチラシによる事前のアピールもあり、山雅ファンの方々も含め大勢の参加で席も満席、大変な賑わいでした。

松本山雅の小沢さんは、「松本山雅FCは約五十年前、駅前の「喫茶山雅」から生まれ長い年月の中、いわゆる山雅劇場等々を経て、地域サポートと共に成長し今に至っています。五十年ぶりに復活した「喫茶山雅」は利益追求ではなく、憩いの場、語らいの場として、又サッカーファンだけではなく、多くの人に気

に残すべき遺産を市民が改めて再認識する必要がある」といった意見もありました。溝上さんからは、今後のまちづくりに対する要望や歴史的事実に沿った整備、復元を進めることが重要であるとの提言をいただきました。

楽に立ち寄ってほしい。それによって街が賑わい共にサッカーも盛り上がる、それを願っています」という話をされました。

宴席は新たに興味を持った方々も含め、サッカー談義で盛り上がりました。高野公民館長からは「ホームゲーム観戦バスツアー」(5月13日対町田戦)計画の話がありました。アルウインの異次元な雰囲気をみんな味わいたいものです。



挨拶する小沢さん(左)と若松さん(右)

松本城の野鳥たち

オナガガモ



写真は久保田佐久良さん(岡田在住)が、松本城の内堀で撮影

オナガガモは、カモ目カモ科カモ亜科マガモ属に分類される鳥類の一種です。名前の通りオスの尾羽が長いのが特徴です。

湖沼、河川、干潟など広い水面に生息し、草の種子や水草の葉・根、底生生物などを食べています。他のカモより首が長いので、逆立ちして水底の餌を探す姿がよく見られます。

またハクチョウ渡来地においてハクチョウ類の周囲に多数群がり、ハクチョウの餌づけの際に殺到する様子も見られます。